

この文章は、18 歳のときにハンセン病(文中では「ライ」)と診断され、47 歳のときにその病気が原因で失明に至った女性が自らの半生を振り返りながら綴った自伝の一部です。そのなかで、彼女はハンセン病による過酷な経験を経て「ほんとうに真実死に切って」(下線部)ようやく笑うことができるようになったと述べています。ここでの「死に切る」とはどのような意味でしょうか？また、なぜ「死に切る」ことが笑えるようになることとつながるのでしょうか？これらの点を十分に説明したうえで、それを踏まえて、あなたは困難な状況におかれた人が笑うにはどのようなことが必要だと考えたかを 600 字以内で述べなさい。

この課題文は著作権の関係により掲載できません。